

ステキな音が心を開く

写真：五来孝平

ここがタチカワ！
ここも立川！ ⑥

ロバハウス (幸町)

もしロバの音楽座を知らない方がいたら、ぜひその扉を開けてみるといい。時間の概念が吹き飛んで、時代の枠をはずしてくれる。「ガランピーボロンは魔法の言葉」。聴けば、自然に楽しくなって、自分の年も忘れてしまう。

玉川上水のせせらぎに誘われて遊歩道を東に行くと、ポッと現れるふしぎな建物。ひさしのような屋根に花が咲き、窓をのぞけば楽器が見える。入り口には小さく「Roba house」の文字。ここはロバの音楽座、カテリーナ古楽合奏団の稽古場だ。月に一度はライブコンサートが開かれる。1973年、カテリーナ古楽合奏団が結成され、中世・ルネサンスの音楽を演奏する中で出会った「ロバの詩」。「下手な歌声、夜空に響き、全ての人を優しく包む、You are ロバさん」の歌詞に、千年前のロバ君からのメッセージを感じとった。「音楽はテクニックばかりではないよ」「もっとゆっくり」「心に豊かな森を」というメッセージ。そこでできたのが「ロバの音楽座」。ちょうど25年前、1982年のこと。

2004年からはNHK教育「バンツばんくろう」「からだであそぼ」の音楽を担当し、「ゲド戦記」の音楽にも参加した。2007年10月27日、28日には青山円形劇場で「ロバ祭」が開催され、詩人の谷川俊太郎から新しい「ロバのうた」も贈られた。

バグパイプやクラムホルン、リュートもサズもリコーダーも、足踏みオルガンや太鼓など、どの楽器からも優しく温かい音色が流れてくる。確かな技術に支えられた心の音は、どんな人の心も開く。立川のひとつの誇り、ロバハウス。